

古代の集落跡

箱田古市前Ⅰ・Ⅱ遺跡は、滝川の自然堤防上に立地しています。箱田古市前Ⅰ遺跡では奈良～平安時代の竪穴建物跡が5軒、箱田古市前Ⅱ遺跡では25軒見つかっています。竪穴建物跡からは、土師器・甕、須恵器羽釜・坏などの土器が出土しました。また、箱田古市前Ⅰ遺跡では古墳時代の水田跡が検出されましたが、箱田古市前Ⅰ・Ⅱ遺跡とも平安時代の水田跡は発見されませんでした。しかし、奈良～平安時代の農業用の水路と考えられる溝跡や溝跡に沿って畦畔のような高まりを有する地点が見つかっています。また、周辺遺跡では農耕用の牛馬の足跡が水田面から発見されていますが、ここでは奈良～平安時代の牛歯の出土が確認されています。このことから、奈良～平安時代にも遺跡に近接した地域には水田跡が広がっていたと推測されます。



箱田古市前Ⅰ遺跡 H-2号竪穴建物跡・カマド (群馬県提供)



箱田古市前Ⅰ遺跡出土遺物 (群馬県提供)

古代の用水路

川曲地蔵前遺跡No.3では、古代の大きな溝が発見されました。この溝は南北に走向する溝が直角に屈曲する形状をしています。また、溝を埋める土の下層から8世紀代の特徴をもつ土器が出土しているため、この溝は条里水田の開発が始まった8世紀以前には存在していたことが明らかとなっています。航空写真で東地区の地割りを確認すると、川曲地蔵前遺跡No.3で発見された溝と並行する地割りや条里地割りに斜交する様な地割りが見られます。今後特徴的な地割りのある地域の発掘調査により水田耕作に係る可能性のある溝跡の発見が期待されます。

大溝出土の遺物

川曲地蔵前遺跡No.3で発見された古代の大溝からは、「物」と推定される墨書土器が出土しています。「物」の文字は、上野国の古代の豪族である物部氏と関連する可能性があります。群馬県西部にあたる西毛地域では、高崎市矢中遺跡群で「物部私印」銅製印章、同市矢田遺跡から「物部郷長」と刻まれた線刻紡錘車などの遺物が、また高崎市の金井沢碑の碑文には物部氏の姻戚関係が記されており、物部氏に関連する資料が多く見つかっています。このことから、本地域も上野国の物部氏の勢力の及ぶ範囲であり、水田開発にも物部氏が関わっていた可能性が十分に考えられます。また、同大溝からは土師器・須恵器片の他、鉄製刀子・刀子の木製鞘片・馬骨・火葬された人骨片など様々な遺物が発見されています。



川曲地蔵前遺跡No.3 古代大溝出土墨書土器



実測図

畦畔出土の土器

川曲地蔵前遺跡No.3から検出された平安時代末の水田跡の大畦畔からは8世紀後半から9世紀前半の特徴をもつ土器片が見つかっています。通常、水田から土器が出土することは少ないですが、水田の中で祭祀を行うために持ち込まれたものである可能性があります。



大畦畔中からの土器出土状態

中世の耕作遺構

東地区では、古墳時代、平安時代、中・近世と連続と耕作が行われてきました。川曲地蔵前遺跡No.3では、平安時代末の水田跡の大畦畔に沿って中世の帯状の水田跡が検出されました。この遺構の耕作面には、開墾時に天仁元(1108)年の浅間山の噴火で降下した浅間B軽石を鋤などで天地返し(表土と下層土を入れ替える土壌改良のための技術)した痕跡も見られました。また、溝跡によって「コ」字状に囲まれた島畑のような畑地も検出されており、水田と同時に畑作も行われていたと考えられます。



中世水田跡調査状況



畑地

中世水田跡

島状畑地と中世水田跡

天地返し跡跡の検出状況

まえばし 地下マップ 東地区

前橋市教育委員会事務局 文化財保護課 Tel.027-280-6511 令和8年3月発行

あずま

東地区の地理的特徴

東地区は、東西2.5km、南北3.5km、面積約600haの大きさがあります。全体的にほぼ平坦ですが、榛名山東南の裾野に接する西北部と東南部の高低差は約19mあり、緩やかに傾斜しています。また、約24,000年前の浅間山を構成する黒斑山の大規模噴火に伴う山体崩壊で発生した岩屑なだれが前橋泥流として堆積し、それを覆う水成堆積層からなる洪積台地に位置しています。現在の台地上は、西に染谷川、中央に滝川が南流し、それらの河川によって形成された微高地(自然堤防)と後背湿地(自然堤防の背後に広がる粘土質で水はけの悪い低湿地)で構成されています。



東地区の微高地と後背湿地 (「箱田古市前Ⅰ・Ⅱ遺跡」1995 第6図を基に作成)

古墳時代の集落跡

東地区には、古墳時代前期から人々が暮らし始めました。当時の人々は、滝川や染谷川によって形成された微高地(自然堤防)上に集落を形成して、自然堤防の背後に広がる後背湿地で水田稲作を行っていました。赤鳥遺跡は、滝川と染谷川に挟まれた自然堤防の西側の縁部に位置し、古墳時代前期の竪穴建物跡1軒、土坑4基、溝跡1条、古墳時代中期の土坑1基、古墳時代の畝状遺構などが検出されています。周辺の同時期の集落跡の規模から本遺跡の集落も小規模であったことが想定されます。また、竪穴建物跡と畠跡と考えられる畝状遺構が重複していますが、畝状遺構のほうが新しいため、集落が廃棄された跡にこの地域が畠として利用されていたと考えられます。



江田村西遺跡No.2H-1号竪穴建物跡出土遺物



江田村西遺跡No.2H-3号竪穴建物跡出土遺物



江田村西遺跡No.2H-4号竪穴建物跡出土遺物

江田村西遺跡No.2では、南北に細長い島状の微高地(自然堤防)上に古墳時代前期から中期の集落跡が検出されました。古墳時代前期の竪穴建物跡が11軒、古墳時代中期の竪穴建物跡1軒、古墳時代の畠跡6か所などがみつかっています。竪穴建物跡は、多くが重複しており、竪穴・床面・支柱穴の更新や拡張の痕跡が確認されていることから、竪穴建物の建て替えが行われていたと考えられます。また、竪穴建物跡からは、古墳時代前期(3世紀後半から4世紀代)の東海地方にルーツをもつ口縁部がS字状の形をしている「土師器S字状口縁台付甕(以下S字甕)」が出土しています。これは東海地方から新しく高度な灌漑技術をもった人々がS字甕を携えて群馬県にやって来たことを表していると考えられます。

古代から続く地名

東地区の中で古市と小相木は成立が最も早かったと考えられています。古市は、国府の市が立った場所としてその名が残り、赤鳥神社は国府の南東に祀られた神社であったと考えられます。国府は「こふ」「こう」と呼ばれており、国府と中央を結ぶ官道には駅が設けられていました。小相木は、「こうのえき」が訛って「こうあえき」となった説があります。また東地区では古墳時代にはすでに稲作が行われており、箱田・江田・川曲・上新田・下新田・稲荷新田(上新田・下新田・稲荷新田は近世の開田で生じた)など水田に関わる地名が多くあります。

水田稲作の開始

東地区では水田稲作が古墳時代から開始されていたことが明らかとなっています。古墳時代の3世紀末に浅間山の噴火によって降下した浅間C軽石下の水田跡が稲荷遺跡、箱田古市前Ⅰ遺跡などで発見されています。また、周辺では弥生時代の水田稲作の痕跡が検出されています。弥生時代後期の稲作の痕跡が確認された日高遺跡は東地区西端の江田村西遺跡No.2から南西約400mと非常に近接した地点に位置していることから、東地区でも古墳時代以前に低湿地で試行的な稲作が行われていた可能性が考えられます。

昭和29年(1954)	東村が前橋市に合併して、東村から東地区となる。
昭和30年(1955)	
昭和31年(1956)	
昭和32年(1957)	
昭和33年(1958)	
昭和34年(1959)	
昭和35年(1960)	
昭和36年(1961)	
昭和37年(1962)	
昭和38年(1963)	
昭和39年(1964)	
昭和40年(1965)	
昭和41年(1966)	
昭和42年(1967)	
昭和43年(1968)	
昭和44年(1969)	
昭和45年(1970)	
昭和46年(1971)	
昭和47年(1972)	
昭和48年(1973)	
昭和49年(1974)	
昭和50年(1975)	
昭和51年(1976)	
昭和52年(1977)	
昭和53年(1978)	
昭和54年(1979)	
昭和55年(1980)	
昭和56年(1981)	
昭和57年(1982)	
昭和58年(1983)	
昭和59年(1984)	
昭和60年(1985)	
昭和61年(1986)	
昭和62年(1987)	
昭和63年(1988)	
昭和64年(1989)	
昭和65年(1990)	
昭和66年(1991)	
昭和67年(1992)	
昭和68年(1993)	
昭和69年(1994)	
昭和70年(1995)	
昭和71年(1996)	
昭和72年(1997)	
昭和73年(1998)	
昭和74年(1999)	
昭和75年(2000)	
昭和76年(2001)	
昭和77年(2002)	
昭和78年(2003)	
昭和79年(2004)	
昭和80年(2005)	
昭和81年(2006)	
昭和82年(2007)	
昭和83年(2008)	
昭和84年(2009)	
昭和85年(2010)	
昭和86年(2011)	
昭和87年(2012)	
昭和88年(2013)	
昭和89年(2014)	
昭和90年(2015)	
昭和91年(2016)	
昭和92年(2017)	
昭和93年(2018)	
昭和94年(2019)	
昭和95年(2020)	
昭和96年(2021)	
昭和97年(2022)	
昭和98年(2023)	
昭和99年(2024)	
令和元年(2019)	
令和2年(2020)	
令和3年(2021)	
令和4年(2022)	
令和5年(2023)	
令和6年(2024)	
令和7年(2025)	
令和8年(2026)	
令和9年(2027)	
令和10年(2028)	
令和11年(2029)	
令和12年(2030)	
令和13年(2031)	
令和14年(2032)	
令和15年(2033)	
令和16年(2034)	
令和17年(2035)	
令和18年(2036)	
令和19年(2037)	
令和20年(2038)	
令和21年(2039)	
令和22年(2040)	
令和23年(2041)	
令和24年(2042)	
令和25年(2043)	
令和26年(2044)	
令和27年(2045)	
令和28年(2046)	
令和29年(2047)	
令和30年(2048)	
令和31年(2049)	
令和32年(2050)	
令和33年(2051)	
令和34年(2052)	
令和35年(2053)	
令和36年(2054)	
令和37年(2055)	
令和38年(2056)	
令和39年(2057)	
令和40年(2058)	
令和41年(2059)	
令和42年(2060)	
令和43年(2061)	
令和44年(2062)	
令和45年(2063)	
令和46年(2064)	
令和47年(2065)	
令和48年(2066)	
令和49年(2067)	
令和50年(2068)	
令和51年(2069)	
令和52年(2070)	
令和53年(2071)	
令和54年(2072)	
令和55年(2073)	
令和56年(2074)	
令和57年(2075)	
令和58年(2076)	
令和59年(2077)	
令和60年(2078)	
令和61年(2079)	
令和62年(2080)	
令和63年(2081)	
令和64年(2082)	
令和65年(2083)	
令和66年(2084)	
令和67年(2085)	
令和68年(2086)	
令和69年(2087)	
令和70年(2088)	
令和71年(2089)	
令和72年(2090)	
令和73年(2091)	
令和74年(2092)	
令和75年(2093)	
令和76年(2094)	
令和77年(2095)	
令和78年(2096)	
令和79年(2097)	
令和80年(2098)	
令和81年(2099)	
令和82年(2100)	
令和83年(2101)	
令和84年(2102)	
令和85年(2103)	
令和86年(2104)	
令和87年(2105)	
令和88年(2106)	
令和89年(2107)	
令和90年(2108)	
令和91年(2109)	
令和92年(2110)	
令和93年(2111)	
令和94年(2112)	
令和95年(2113)	
令和96年(2114)	
令和97年(2115)	
令和98年(2116)	
令和99年(2117)	
令和100年(2118)	
令和101年(2119)	
令和102年(2120)	
令和103年(2121)	
令和104年(2122)	
令和105年(2123)	
令和106年(2124)	
令和107年(2125)	
令和108年(2126)	
令和109年(2127)	
令和110年(2128)	
令和111年(2129)	
令和112年(2130)	
令和113年(2131)	
令和114年(2132)	
令和115年(2133)	
令和116年(2134)	
令和117年(2135)	
令和118年(2136)	
令和119年(2137)	
令和120年(2138)	
令和121年(2139)	
令和122年(2140)	
令和123年(2141)	
令和124年(2142)	
令和125年(2143)	
令和126年(2144)	
令和127年(2145)	
令和128年(2146)	
令和129年(2147)	
令和130年(2148)	
令和131年(2149)	
令和132年(2150)	
令和133年(2151)	
令和134年(2152)	
令和135年(2153)	
令和136年(2154)	
令和137年(2155)	
令和138年(2156)	
令和139年(2157)	
令和140年(2158)	
令和141年(2159)	
令和142年(2160)	
令和143年(2161)	
令和144年(2162)	
令和145年(2163)	
令和146年(2164)	
令和147年(2165)	
令和148年(2166)	
令和149年(2167)	
令和150年(2168)	
令和151年(2169)	
令和152年(2170)	
令和153年(2171)	
令和154年(2172)	
令和155年(2173)	
令和156年(2174)	
令和157年(2175)	
令和158年(2176)	
令和159年(2177)	
令和160年(2178)	
令和161年(2179)	
令和162年(2180)	
令和163年(2181)	
令和164年(2182)	
令和165年(2183)	
令和166年(2184)	
令和167年(2185)	
令和168年(2186)	
令和169年(2187)	
令和170年(2188)	
令和171年(2189)	
令和172年(2190)	
令和173年(2191)	
令和174年(2192)	
令和175年(2193)	
令和176年(2194)	
令和177年(2195)	
令和178年(2196)	
令和179年(2197)	
令和180年(2198)	
令和181年(2199)	
令和182年(2200)	
令和183年(2201)	
令和184年(2202)	
令和185年(2203)	
令和186年(2204)	
令和187年(2205)	
令和188年(2206)	
令和189年(2207)	
令和190年(2208)	
令和191年(2209)	
令和192年(2210)	
令和193年(2211)	
令和194年(2212)	
令和195年(2213)	
令和196年(2214)	
令和197年(2215)	
令和198年(2216)	
令和199年(2217)	
令和200年(2218)	
令和201年(2219)	
令和202年(2220)	
令和203年(2221)	
令和204年(2222)	
令和205年(2223)	
令和206年(2224)	
令和207年(2225)	
令和208年(2226)	
令和209年(2227)	
令和210年(2228)	
令和211年(2229)	
令和212年(2230)	
令和213年(2231)	
令和214年(2232)	
令和215年(2233)	
令和216年(2234)	
令和217年(2235)	
令和218年(2236)	
令和219年(2237)	
令和220年(2238)	
令和221年(2239)	
令和222年(2240)	
令和223年(2241)	
令和224年(2242)	
令和225年(2243)	
令和226年(2244)	
令和227年(2245)	
令和228年(2246)	
令和229年(2247)	
令和230年(2248)	
令和231年(2249)	
令和232年(2250)	
令和233年(2251)	
令和234年(2252)	
令和235年(2253)	
令和236年(2254)	
令和237年(2255)	
令和238年(2256)	
令和239年(2257)	
令和240年(2258)	
令和241年(2259)	
令和242年(2260)	
令和243年(2261)	
令和244年(2262)	
令和245年(2263)	
令和246年(2264)	
令和247年(2265)	
令和248年(2266)	
令和249年(2267)	
令和250年(2268)	
令和251年(2269)	
令和252年(2270)	
令和253年(2271)	
令和254年(2272)	
令和255年(2273)	
令和256年(2274)	
令和257年(2275)	
令和258年(2276)	
令和259年(2277)	
令和260年(2278)	
令和261年(2279)	
令和262年(2280)	
令和263年(2281)	
令和264年(2282)	
令和265年(2283)	
令和266年(2284)	
令和267年(2285)	
令和268年(2286)	
令和269年(2287)	
令和270年(2288)	
令和271年(2289)	
令和272年(2290)	
令和273年(2291)	
令和274年(2292)	
令和275年(2293)	
令和276年(2294)	
令和277年(2295)	
令和278年(2296)	
令和279年(2297)	
令和280年(2298)	
令和281年(2299)	
令和282年(2300)	
令和283年(2301)	
令和284年(2302)	

東地区地下マップ

◆古墳時代の水田跡の特徴

①箱田市前I遺跡②稲荷遺跡

古墳時代の水田は、面積が数㎡から数十㎡の小区画に区切られた「小区画水田」が多数集まる形式であることが特徴です。箱田市前I遺跡では、一辺が約2mから4m、面積は平均約7㎡、稲荷遺跡では一辺が約2mから7mの面積は平均約12㎡の小区画水田が検出されました。また、これらの小区画は基本的に長方形を呈していますが、正方形に近いものや台形などの様々な形状が見られます。小区画水田は、傾斜地や谷間など地形的な制約のある場所でも水を均等に行き渡らせることができ、水の管理がしやすいという利点があります。



古墳時代水田跡 (箱田市前I遺跡：群馬県提供)



古墳時代水田跡 (稲荷遺跡)

◆平安時代の水田跡の特徴

③川曲阿弥陀西遺跡No.3 ④川曲地蔵前遺跡No.3

平安時代の水田跡は、645年の大化の改新以降推進された律令制に基づく土地の区画制度(条里制)の制度下にあったと考えられています。条里制は古代の長さの単位である一町四方の区画を基本とし、水田を同じ大きさの区画にそろえて管理しようとするものです。条里制により、土地の正確な位置や面積が簡単にわかるようになったと考えられています。古墳時代の水田と異なる点は水田区画が整った四角形をしているものが多いということです。また、牛や馬を使って耕作を行うことが普及したため、一辺5～20mと一区画が大きくなっています。牛馬を使用することにより平安時代は生産性が以前より向上したと考えられます。



平安時代水田跡 (川曲阿弥陀西遺跡No.3)

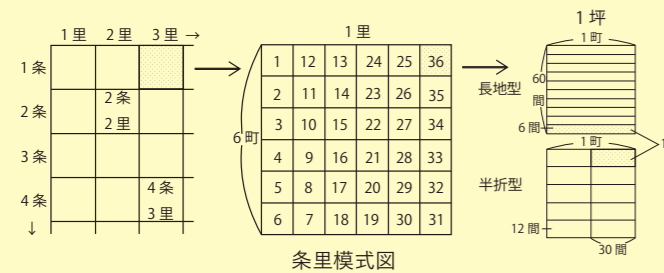


平安時代水田跡 (川曲地蔵前遺跡No.3)

◆条里水田の地割り

⑤柳橋遺跡⑥川曲地蔵前II遺跡

条里地割りは1町(約109m)四方を単位とする方格子地割りで、一町(坪)の坪内の地割りは、長地型水田・半折型水田・不規則区画水田の大きく3形態に分類できると考えられています。「長地型」は短辺が6間(約10.8m)で長辺が60間(約109m)の長方形で10等分に区画するものです。「半折型」は短辺が12間(約21.6m)で長辺が30間(約54m)の長方形で10等分に区画するものです。また、高崎市日高遺跡の報告書によると、これらの形態は半折型⇒不規則区画⇒長地型の順に変遷すると考えられていますが、長地型と半折型の折衷した形態をもつものも見られます。



平安時代水田跡 (柳橋遺跡) (長地型)



平安時代水田跡 (川曲地蔵前II遺跡) (半折型)

*本市刊行の発掘調査報告書は、奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」からダウンロードすることができます。



◆条里水田坪界の大畦畔

西島遺跡群(高崎市)から検出された条里水田の交点を基準にして一町(109m)方格で区切った条里地割りの推定線を発掘調査すると、坪境の大畦畔が見つかります。川曲地蔵前II遺跡・川曲地蔵前遺跡No.3・川曲阿弥陀西遺跡No.2・下新田中沖遺跡などでは南北大畦畔が、川曲島野遺跡では東西大畦畔が検出されました。

発見されたほとんどの大畦畔は坪内区画の畦畔よりも規模が大きくなっています。また、川曲地蔵前遺跡No.3の大畦畔は、中央に浅い溝が掘られており、水路としても利用されていたと考えられます。



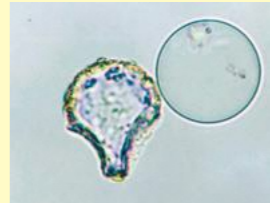
南北大畦畔 (川曲地蔵前遺跡No.3)



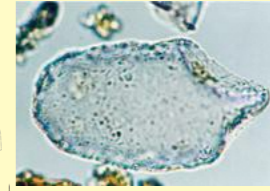
東西大畦畔 (川曲島野遺跡)

◆東地区の水田遺跡におけるプラントオパール分析

プラントオパールとは、植物の細胞内に蓄積するガラスの主成分であるケイ酸が、植物が枯れた後も土壤中に半永久的にのこる植物珪酸体という微化石になったものです。プラントオパールは植物の種類によって形状が異なっているため、遺跡の土壌に含まれているプラントオパールを偏光顕微鏡で観察することで植物の種類を同定し、遺跡が形成された当時の植生を復元することができます。



イネのプラントオパール



ヨシ属のプラントオパール

稲荷遺跡では、平安時代の浅間B軽石より下の層からイネのプラントオパールが微量に検出されており稲作が行われていたことが認められました。一方、古墳時代に降下した浅間C軽石より下の層ではヨシが多く見られました。浅間B軽石より下の層ではイネの割合が多く、より下層(より古い時代)になるにつれてイネよりヨシ属の割合が増えていくという特徴は、東地区で発見された他の遺跡でも見られます。このことは、東地区は稲作が開始される前はヨシなどが生育する湿地的な環境が広がっていましたが、湿地の広がる状況を利用して水田稲作が広まっていったことを示しています。

◆水田に残される足跡

⑧川曲地蔵前遺跡No.4 ⑨川曲柳橋II遺跡

天仁元(1108)年の浅間山噴火で降下した浅間B軽石によって埋没した水田跡からは、楕円形やひょうたん形をした足跡が発見されることがあります。川曲地蔵前遺跡No.4などでは牛馬のものと推定される足跡が見つっています。川曲柳橋II遺跡などではヒトのものと推定される足跡が見つっています。足跡の形状や歩幅の計測値によって何の足跡であるかを推定しています。



馬の足跡(川曲地蔵前遺跡No.4)



人の足跡(川曲柳橋II遺跡)

- 発掘・試掘調査したところ
- 平安時代の水田畦畔(あぜ)
- 坪境畦畔(大畦畔)

